

## 液化ガス貯蔵設備の容量等の公表

### 1. 現行設備

	姫路 LNG 基地	堺港発電所および堺 LNG センター
受入船型	船型 モス型 LNG 船 ムブレン型 LNG 船	船型 モス型 LNG 船 ムブレン型 LNG 船
貯蔵設備	40 千 kL × 1 基 80 千 kL × 6 基	140 千 kL × 4 基
気化設備	150t/h 高圧 ORV × 4 基 140t/h 高圧 ORV × 3 基	148.5t/h 高圧 ORV × 4 基 135t/h 低圧 ORV × 2 基
熱調設備	6 万 m <sup>3</sup> /h × 3 系統 7 万 m <sup>3</sup> /h × 2 系統	11 万 m <sup>3</sup> /h × 3 系統

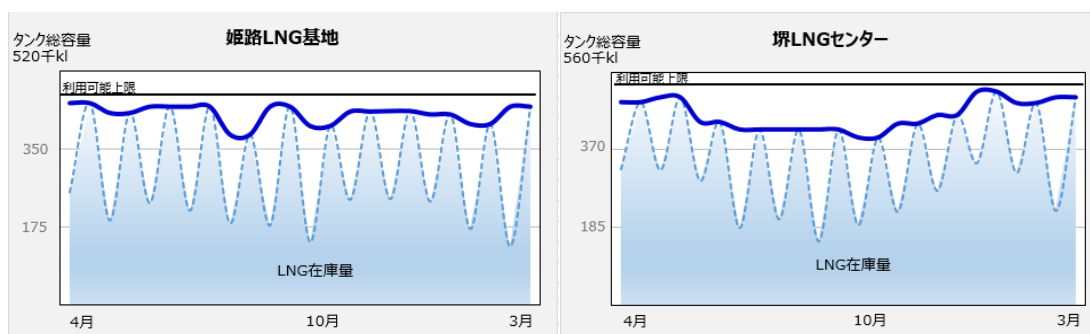
(注) 船舶の受入可否の判断については、船陸整合性の確認を必要とし、確認結果により受け入れることができない場合があります。

### 2. 貯蔵余力およびガス製造余力の見通し

2024 年 5 月時点では、姫路 LNG 基地については、貯蔵余力およびガス製造余力の範囲内でガスの製造を行うことができます。

一方、堺港発電所および堺 LNG センターについては、ガス製造余力がないため、ガスの製造を行うことはできません。

### 3. 貯蔵余力 (イメージ)



\*1 上図は、当社の一年を通じた LNG 貯蔵余力を模式化して表したものです※。

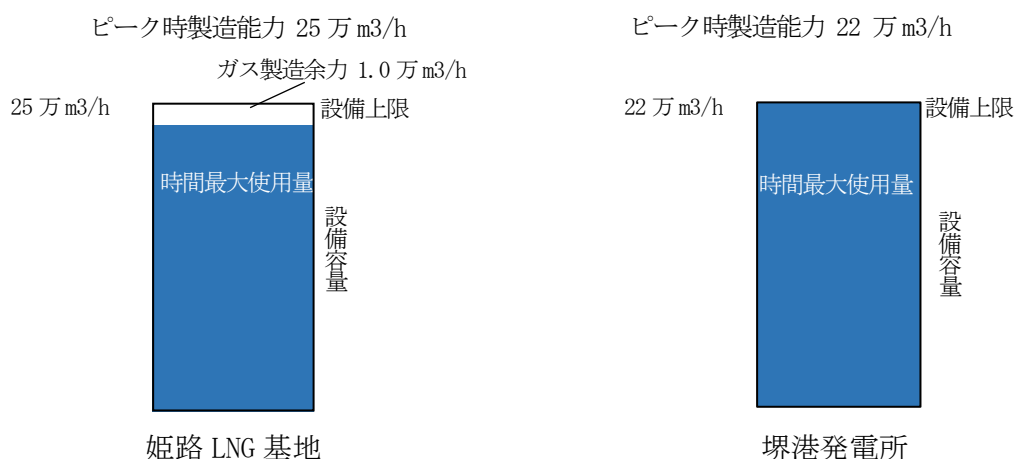
LNG 貯蔵余力については、当社の LNG 受入状況、電力・ガスの需要動向、定期的または予定外の設備工事、当社以外の利用者の基地利用状況等により変動する可能性

があります。

※ 当社の LNG 貯蔵量は、青破線のように、ひと月の中でも上下に変動しますが、それらの上部頂点をつないだ青実線より上側のスペースが、LNG 貯蔵余力になります。ただし、これらの青破線・実線は、ともに当社の至近実績等をもとに模式化して表したものであり、今後予定される LNG 受入回数や払出回数を示すものではありません。

\*2 2024 年 5 月時点では、当社の LNG 基地において、当社との間で LNG 在庫の貸借を行った上で、一般的な LNG 船を受け入れる貯蔵余力がある場合があります。ただし、当社 LNG 基地 2 拠点のガス製造余力は、下記「4. ガス製造余力」の通りです。

#### 4. ガス製造余力（イメージ）



(注) 上図は、熱量調整設備の時間最大使用量をイメージで表したものです。

なお、ガスの需要動向、熱量調整設備の定期点検工事等によって変動いたします。

2024 年 5 月時点では、姫路 LNG 基地のガス製造余力は 1.0 万 m<sup>3</sup>/h です。一方、堺港発電所はご利用いただける余力はありません。

#### 5. 配船計画のおおよその策定スケジュール

各年度の配船計画の策定スケジュールは概ね以下の通りです。

- ・前年度 8 月頃 …… LNG 売主との間で配船計画に関する協議を開始
- ・前年度 12 月～3 月頃 …… LNG 売主との間で配船計画に合意

注) 上記はおおよその策定スケジュールであり、具体的な配船計画策定スケジュールは、それぞれの LNG 売買契約の規定によって異なります。